

デュアルシステムによる就業体験実習

熊本県立松橋支援学校高等部氷川分教室

1 はじめに

本分教室は、知的障がいのある高等部の生徒を対象に、昨年4月、県立氷川高等学校跡地に開室しました。現在、第1期生9人（男子8人、女子1人）が在籍しています。

「くらす はたらく たのしむ つながる」を分教室のテーマとし、校内の作業学習で「はたらく力」の育成を図っており、さらに卒業後の「はたらく生活」を見据え、2学期から1年生全員がデュアルシステムによる就業体験実習に取り組んでいます。

デュアルシステムとは、ドイツを発祥とする教育と職業訓練を同時に進める考え方で、「週に1日程度の体験実習を数週間続ける」ものです。本分教室のように、学年全員が一斉に取り組むのは、県内で初めてです。

2 取組の様子

体験実習は、毎週水曜日、2～4人のグループを編成して学校周辺の事業所で行いました。学校周辺の事業所を選んだのは、新たに開室した分教室として、地域との「つながり」を大切にしたいからです。

今年度は、生徒の実態や希望職種、安全面・衛生面などを考慮して、「ホームプラザナフコ東八代店」（バックヤード、商品出し）、「株式会社八代加工」（ネギの皮むき）、氷川町社会福祉協議会（温泉センターの受付、デイサービスの補助）の3箇所とし、1期（5回）ごとにグループを交代しました。



<ホームプラザナフコ東八代店>



<株式会社八代加工>



<氷川町社会福祉協議会>

毎回の体験実習の前後には、目標設定と振り返りを行い、事前・事後指導の充実を図りました。直前・直後に具体的な指導ができ、生徒にとっても当日の目標や課題が明確になりました。この実習を経験し、校内でも、あいさつ、返事、報告が上手にできるようになっています。

また、中学生と保護者を対象とした分教室説明会（11月実施）では、体験実習の様子と成果を自分たちでプレゼンテーションしました。自分で考え、主体的に活動する場面が増えています。



<プレゼンテーションの様子>

3 おわりに

週1回の体験実習は、失敗したことやうまく出来なかったことを、次回までに自分で考え、工夫や修正することができます。また事業所では、生徒の力や経験に応じて、徐々に難しく複雑な仕事にも携わる機会をいただいています。これは、生徒の自信になり、「はたらく意欲」の向上にもなっています。

今後も氷川分教室では、氷川高等学校から受け継いだ充実した施設・設備を十分に活用し、分教室ならではの地域に根ざした取組をすすめていきたいと考えています。